

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 18 年 3 月 16 日 (2006.3.16)

【公開番号】特開 2003-342460 (P2003-342460A)

【公開日】平成 15 年 12 月 3 日 (2003.12.3)

【出願番号】特願 2003-23309 (P2003-23309)

【国際特許分類】

C 0 8 L 67/04 (2006.01)

C 0 8 K 3/00 (2006.01)

C 0 8 L 59/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

C 0 8 L 101/16 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 67/04 Z B P

C 0 8 K 3/00

C 0 8 L 59/00

C 0 8 L 101/00

C 0 8 L 101/16

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 1 月 27 日 (2006.1.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ポリ乳酸樹脂、ポリアセタール樹脂、ならびに、ポリエチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂、脂肪族ポリケトン樹脂、ポリスチレン樹脂、AS 樹脂、ポリカーボネート樹脂およびセルロースエステル樹脂から選ばれるその他の熱可塑性樹脂を含有してなることを特徴とする樹脂組成物。

【請求項 2】 前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を 100 重量部としたときに、前記ポリ乳酸樹脂の含有量が 99 重量部以下 50 重量部以上であることを特徴とする請求項 1 に記載の樹脂組成物。

【請求項 3】 前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を 100 重量部としたときに、前記ポリアセタール樹脂の含有量が 99 重量部以下 50 重量部超であることを特徴とする請求項 1 に記載の樹脂組成物。

【請求項 4】 前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を 100 重量部としたときに、前記その他の熱可塑性樹脂の含有量が 100 重量部以下 1 重量部以上であることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の樹脂組成物。

【請求項 5】 樹脂組成物中のポリ乳酸樹脂とポリアセタール樹脂が相溶化していることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の樹脂組成物。

【請求項 6】 前記ポリアセタール樹脂がポリアセタールコポリマーであることを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の樹脂組成物。

【請求項 7】 さらに、強化材を含有することを特徴とする請求項 1 ～ 6 のいずれか 1 項に記載の樹脂組成物。

【請求項 8】 請求項 1 ～ 7 のいずれか 1 項に記載の樹脂組成物からなる成形品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 3 】

すなわち、本発明は、ポリ乳酸樹脂、ポリアセタール樹脂、ならびに、ポリエチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂、脂肪族ポリケトン樹脂、ポリスチレン樹脂、A S樹脂、ポリカーボネート樹脂およびセルロースエステル樹脂から選ばれるその他の熱可塑性樹脂を含有してなることを特徴とする樹脂組成物を提供するものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 4 】

なお、本発明の樹脂組成物においては、

前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を 1 0 0 重量部としたときに、前記ポリ乳酸樹脂の含有量が 9 9 重量部以下 5 0 重量部以上であること、

前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を 1 0 0 重量部としたときに、前記ポリアセタール樹脂の含有量が 9 9 重量部以下 5 0 重量部超であること、

前記ポリ乳酸樹脂およびポリアセタール樹脂の合計を 1 0 0 重量部としたときに、前記その他の熱可塑性樹脂の含有量が 1 0 0 重量部以下 1 重量部以上であること、

樹脂組成物中のポリ乳酸樹脂とポリアセタール樹脂が相溶化していること、

前記ポリアセタール樹脂がポリアセタールコポリマーであること、および

さらに、強化材を含有すること

が、いずれも好ましい条件として挙げられ、これらの条件を適用した場合には一層優れた効果の取得を期待することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 8 】

本発明で使用するその他の熱可塑性樹脂とは、ポリエチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂、脂肪族ポリケトン樹脂などの結晶性熱可塑性樹脂を挙げることができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 9

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 0

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 3 】

非晶性熱可塑性樹脂としては、ポリスチレン樹脂、ＡＳ樹脂、ポリカーボネート樹脂、セルロースエステル樹脂（セルロースアセテート樹脂、セルロースアセテートプロピオネート樹脂など）などを挙げることができる。